

漢詩：文苑

著者	巴城, 杉山, 愛日居主人
雑誌名	龍南會雜誌
巻	42
ページ	40-41
発行年	1895-12-26
URL	http://hdl.handle.net/2298/4766

海上所見

晚風颯々菰蘆汀。暮色蒼々海面冥。今夜泊舟何處是。漁燈明滅入疎星。

有明洋上見月

一眸萬里絕雲烟。皎々氷輪轉碧天。何處今宵無此月。有明洋上更妍々。

海上曉起

白帆點々孕風輕。欸乃聲々鷗不驚。朝旭映波水愈碧。雲仙山上雲芹橫。

曉行途上作

戎裝結束上長程。一路村鷄尙未鳴。流水涓々清氣逼。遠山杳々淡烟橫。板橋風渡新霜白。江樹月沈棲鳥驚。野寺鐘聲二三四。東方曙色漸分明。

名護屋城懷古

海氣昏々浪拍天。百年殘墟自依然。隴間古瓦章猶在。史上偉功事久傳。遙望西天感多少。空懷時運淚潸然。東洋今日風雲惡。誰繼雄圖謀十全。

時運二字起後句雄圖二字結前句

稻崎宮 櫻賴氏所賦

世情轉々若波瀾。廟額依然照碧灣。長倚神威服戎狄。東西大陸指揮間。

高山松陰居士墓 墓在遍照院

狂愚畢竟任人評。報國丹心身命輕。熱淚何堪今昔感。松風滿院激餘聲。

客舍偶成

萬里澄開月影清。一眸占斷遠山晴。忽驚半夜疾風至。滿壑松聲流水聲。

筆鋒雄壯雖百萬兵不能當也

稼堂陳人批

與友人

愛日居主人

同遊同學友情深。日夜共談鉄石心。一別幾看往時夢。相思發作異鄉吟。

批評

前號雜評

盲蛇

他人のすなる批評といふものを、おのれもまてみんとてするなり。ゆめ無鐵砲をな尤めぞ。盲蛇前號を受取りて、先づ近頃になき編輯の不出來に驚きたり。かくいへばとて、強ちにけなし付くる譯にはあらねど、云はねば腹ふくるゝわざなれば、さては悪まれ口をた、かんと思ふも、吾會を思ふ心の切なればなりけり。前號の雜誌は單調にして面白からず。盲蛇今の委員諸子が明らに吾雜誌を革新せられし功勞を認むること大なる故、前號の不出來を見ては一層驚きたり。論説欄、内田教授の花あり實ある論文、誠に面白く、益する所尠からず。三谷講師の長題の論文、一應讀過えたるのみ、藤村君の漢人種、前號にて終りぬ。成程龍田の山人かいひけん如く、福井前教授の着眼と論法と、其儘に見る如し